

「なごや介護予防・認知症予防プログラム」にかかるQ&A（平成28年4月28日時点）

No	区分	Q	A
1	【多い質問】 プログラム全般	プログラムの内容を全て行わなければならないか。	原則としてプログラムの内容に沿って行っていただく想定ですが、高齢者の状況によって柔軟に対応して下さい。高齢者の状況によって、初日からプログラムに参加できる方いれば、最初は見学から始めて徐々に参加していく方もいると思います。6か月後には全員が参加できることを目標にして、できない分野ができるようになったときは頑張りを認め合いながら、改善することの喜びや生きがいを皆と共有することを目的とするものです。また、このプログラムは1日約2時間で行っていただくものになっているため、サービスの時間の枠に余裕があれば、このプログラムに追加して各事業所でオリジナルの内容をプラスいただくことも可能です。
2	【多い質問】 栄養 (調理実習)	調理実習はどの程度の内容を計画したらよいか。	プログラムの目標に沿っていれば、事業所の可能な範囲の中で計画いただくことで差し支えありません。また、調理実習については、実施が難しい事業所向けに、グループワークを代替案として示しています。
3	【多い質問】 アセスメント	クールの途中で参加する場合や、欠席した場合はどうしたらよいか。	原則その日に行うプログラムを参加者全員が行います。欠席した日や途中参加のために、行っていないプログラムがあっても個別に対応いただくことは想定していません。一方、各事業所において、時間や体制に余裕があれば、個別に対応いただくことも可能です。ただし、欠席したプログラムが後日実施するプログラムと関連する場合は個別の対応が必要となります。
4	【多い質問】 その他	クールの途中から新規依頼があった時の対応はどうしたらよいでしょうか。	クールの途中からも参加できます。また、クールの途中から参加いただいた場合、次のクールを1クール開始としてカウントいただくこともできます。【途中参加の日数+1クール（3か月）+1クール（3か月）を最大利用期間とする。】
5	プログラム全般	提供時間は2時間を超えてもよいか。	このプログラムの提供時間は約2時間となっておりますが、各事業者のサービス提供時間の枠と高齢者の状況から、プログラムをゆっくり行っていただいても構いませんし、逆に時間が余るようであれば、各事業所でオリジナルの内容を追加することも可能です。

No	区分	Q	A
6	プログラム全般	問診票は毎回記入しなければならないか。	プログラムを安全に行っていただくために、原則として毎回問診をしていただき、利用者の体調を確認して下さい。
7	プログラム全般	2クール終了者の再開期間はどうか。	再開の考え方は検討中です。
8	プログラム全般	食事に介護を要する方に対してはどうしたらよいか。	要支援状態までの方に行っていただくプログラムとしているため、食事介助は想定していませんが、各事業所において対応いただける状況であれば、プログラムに参加いただいても構いません。
9	プログラム全般	プログラムのフリープランについては参考となるものが示されますか。	28年度の実施については示す予定はありません。よって各事業所でオリジナルの内容を行っていただく予定です。
10	プログラム全般	専門型と一体で運営していく場合、要介護者も同じ内容で進めていってよいか。	プログラムの内容から専門型の方も取り組める内容と判断できる場合は、同じ内容で進めていただくことも可能です。
11	アセスメント	チェックシートはマニュアルの様式を使用しなければならないか。	プログラムで示したアセスメントの項目が入っていれば様式は問いません。また、項目を追加いただくことも可能です。
12	アセスメント	アセスメントの測定はスタッフ一人が複数の利用者に対して同時に行ってもよいか。	アセスメントは極力集団で実施できるよう配慮しています。TUGや2.4m歩行速度はタイムを測定するため個別の対応が必要となりますが、集団で実施できるものについては、実施することについて差し支えありません。
13	アセスメント	持ち帰った記入シートを利用者が忘れたときはどうしたらよいか。	前回のシートがなくてもプログラムは実施できるようになっています。なお、シート忘れの予防策として、各事業所で途中まで取り組んだシートのコピーをとっておくことや、自宅で取り組んだものを携帯電話の写真に保存していただくなど、様々な工夫が必要になる場合もあります。
14	アセスメント	口腔のアセスメントで義歯等に問題があった場合は、歯科受診を勧めてもよいか。	明らかに受診が必要な場合は受診を勧奨してもよいが、判断に迷う場合は、いきいきセンターにご相談願います。

No	区分	Q	A
15	アセスメント	認知検査として、長谷川式やMMSEなどを行ってもよいか。	長谷川式スケールやMMSEは専門的な検査であるため今回のアセスメントからは外していますが、プログラムに示されたアセスメントを行っていただいた上で、追加で行っていただく部分については支障ありません。
16	アセスメント	アセスメントの保存方法や評価方法を教えてください。	利用者に対して個人カルテを作成いただき、アセスメントもカルテの中で個人情報として保存していただくこととなります。また、アセスメントの結果をシートに入力いただく予定としており、高齢者個人へアセスメントの結果を渡せるようにするほか、プログラムの効果評価も行う予定としています。
17	栄養 (調理実習・試食会)	名古屋めしの試食の弁当代や調理の材料費は自費でいただくのか。	利用者が負担することを想定しています。
18	栄養 (試食会)	名古屋めしに馴染みがない方はどうしたらよいか。	必ず名古屋めしでなくてはならないものではありません。また、名古屋めしをいただきながら、それぞれの出身地域の食事と比較して、古い記憶を語っていただいてもよいかと思います。また、どんな内容のお弁当でも「お弁当」をキーワードにすれば語っていただくことが可能かと思われまます。
19	栄養 (試食会)	通常のサービス利用者と分ける事ができない場合も試食等は実施しなければならないのか。	各事業所で工夫していただき、できる限りプログラムに沿った内容で実施をお願いします。
20	栄養 (試食会)	食事は提供していませんが、名古屋めしは実際に食べなければなりませんか。また、どこの配食サービスに頼むのか。写真で名古屋めしは駄目なのか。	お弁当が難しいのであれば、試食という形でもよいので、目的にあるように皆で食事をする機会を持ってください。福祉会館のモデル事業では、参加者と相談し近くのお弁当屋さんや百貨店でお弁当を購入していたようです。また、区内の配食サービス事業者に公平に注文するのもよいと思います。
21	栄養 (調理実習)	男性の中には調理をしたことがない方もいるが、そのような方にも調理実習を行うのか。	グループで調理実習を行うため、料理の経験がない方は簡単な役割を担っていただくなどご配慮ください。

No	区分	Q	A
22	栄養 (調理実習)	普段、食事提供を行っていない施設でも調理実習は行ってよいか。	卓上で簡単にできるように工夫しているため、調理場がなく食事提供を行っていない施設でも取り組んでいただけます。
23	栄養 (調理実習)	調理実習をするにあたって、保健所に申請をする必要はありますか。	参加者が自ら調理し食べるので、販売等の営業には該当せず、保健所への申請は必要ありません。
24	栄養 (調理実習)	糖尿病で食事制限のある方はどうすればいいでしょうか。	ご本人から医師の指示や普段の食事状況を伺い、お弁当を注文する際は先方へ伝えること、また調理実習のメニューはご本人に確認して下さい。
25	栄養 (調理実習)	調理実習を行う場所がありません。	調理実習は台所や調理場で行っていただくことは想定しておらず、室内のテーブルで作業していただける内容としています。ホットプレートで調理したり、電子レンジで加熱する際は、職員が代理で行っていただくこともありますが。
26	その他	福祉会館でもプログラムを行うことが前提か。	平成27年度は福祉会館においてプログラムのモデル事業を実施していましたが、平成28年度は新しく認知症予防事業を行うため、プログラムの一部のみ（ウォーミングアップとコグニサイズ）を行う予定です。
27	その他	ホームエクササイズのパoster・DVDを誰が作成するのか。	地域ケア推進課で作成する予定です。
28	その他	今後の研修の予定を教えてください。	平成28年度は4回程度の研修を予定しています。